



「産業カウンセラー」として活躍した井波ゆき子さんは 「キャリアアカウンセラ―」「講演、専門誌への寄稿と大忙し」

79年から22年間続いた朝のワイドショー「ルックルックこんにちは」(日本テレビ)。「突撃ノ隣の晩ごはん」「ドキコメント・女ののど自慢」などの名物コーナーが懐かしい。そこで沢田亜矢子、岸部シロー、松永三男アナと司会は代われど、最後までリポーターを続けた女性がいる。井波ゆき子さんだ。今どうしているのか。

「ルックルックの井波ゆき子さん」 「こんにちは」のリポーターだった



「おかげさまで教えきれ、ビュームずいぶんやらせました。かつて「ミス鎌倉静なほほど大勢の方たちとていたのだし。ワタ 御前コンテスト」で優勝お会いしてきたわ。ひばシ、昔から友達に悩みました経歴の持ち主でありさんや裕次郎さんとか相談を持ちかけられる。大物芸能人の独占インタビューで、話を聞くのが好「水着審査がなかった頃

きな。だから、リポーターにも向いていたんでしょね」
JR品川駅近くのカフェで待ち合わせした井波さん、エンジ色のパンツスーツに同色のカラーをキュッと締め、颯爽と現れ

四幸家
本一松
直撃



の話です、ハハハ。あれからウン十年、ホント、トシには勝てないけど、実は今、カウンセラーとして活動してるの。コミユニケーションやメンタルヘルスについて帝京大学で講義したり、地方に講演に行ったり、専門誌に原稿書いたり、けっこう忙しいわ」
井波さんはOLをしながら東京アナウンスアカ

デミーに通い、卒業と同じに組み込まれ、そのまま深いというか、本格的に時に「竹村健一の世相講「ルックルック——」のいろんな方の心の支援を談」（日テレ）のアシスリポーターになった。する仕事をしたいなっタントに。そして、同番組「『ルックルック——』で。アラフォーを過ぎては79年から始まった「ルックルック——」が終わったのを機に、イからの勉強は大変でしたツクルックこんにちは」インタビュよりもっとけど」

「93歳の認知症の母の介護で手いっぱい。別居婚だったらいいかな、なんて夢は持ってるのよ」

名刺には「日本産業力 中高齢者の心の内を開い 織り交ぜながら、わかり ウンセラ―協会認定・産 業力ウンセラ―」 「業力ウンセラ―」 「キャリアカウンセラ―」 「日 去年11月には岐阜県精 神保健福祉協会主催の 励みになりました」

「職場や組織の中で心の 不調を抱えた人を手助け するのが産業力ウンセラ ー。職場内のイジメや人 神障害者、行政担当者、 きちゃった。今は93歳の 間関係で悩んでうつにな 医師、看護師、ボランテ 認知症の母の介護で手い るケースがよくあるの。 ィアと年齢も職業もさま っぱい。でも、別居婚だ 一方、職に就けないこと さまざま430人の来場者 たらいいかな、なんて 力で病みがちな若者や、体 がありましてね。講演の 夢は持ってるのよ」

生じる人生の午後への不 しい題材を楽しい内容を る予定だ。

安からくじけそうになる